



そうこう

霜降（23日）… 裏庭の柿の葉や実の色が濃くなり始めます …

フェンスに枝を伸ばしたぶどうは、10月中旬に収穫し、一人一粒ずつでしたがおいしくいただくことができました。裏庭の柿は葉っぱから色付きが始まっています。売り物になりそうなきれいでとても甘い柿です。青南幼稚園の豊かな秋の実りに感謝するばかりです。

<曇時施 こさめときどきふる 10月28日~11月1日>

霜降の次候は「曇時施」です。晩秋から初冬にかけて一時的に降ったり止んだりする小雨のことを時雨(しぐれ)と言い、曇(こさめ)とは、その時雨のことだそうです。

<先生たちのチームワークの成果>

作品展については、事前に各学年から提案があり、全員で意見交換をしました。素材や描き方、紙の色や大きさ、展示の仕方なども話し合う中でみんなから出された考え方やアイデアが、実践の際にいろいろと生かされていました。また開催前日には、早めに作業が終わった先生が、他学年の作業や部屋の片付けなどを手伝う姿が自然に見られ、うれしく思いました。このチームワークのよさが、青南の保育の質の高さを支えています。

<遊びの中で自然に描いたり作ったりして>

年少組は、普段の遊びの中に造形遊びとも言えるような環境を用意し、興味をもって取り組んだものが作品になっていく形で進めました。じゃがいもを模様のスタンプにして、Tシャツの模様を付けて遊びました。夏にはのりを使ってアイスクリームにトッピングを乗せることを楽しみました。お弁当の絵本を読んだ後に、弁当箱の中身を自分で塗ったり描いたりすることを楽しみました。フタを開けると見える仕掛けも楽しかったです。



<おぼけのイメージを共有できているからこそ>

年中組は、暑い夏にクレパスと絵の具の不思議を味わいながら、おいしいジュースを作りました。誕生会のパネルシアターを見て、かぼちゃのおぼけのイメージが膨らんだことがきっかけで、どの子も蛍光絵の具でダイナミックで個性豊かなおぼけが生まれました。カラービニールでクッション材を包んでセロテープで留める作業を楽しんで、立体のかわいいおぼけができること、かわいがってよく遊んでいました。



<よく見て感じたことを描き、思いを巡らせて工夫してオリジナルの家や服も完成>

年長組は、種をまいて水やりをして生長を見守り続けてきたからこそ、ひまわりが咲いたときの感動が大きく、じっくり見て感じたことを丁寧に描き、個性的ですてきな絵になりました。自分だけのこびとの家をどんぐりや木片で設計して建てました。土台は園内のカイツカイブキの輪切りです。オリジナルの服は、デザイン画を描いた上で、使い慣れたカラーポリやビニールテープでそのイメージを形にし、遊び込んだ服です。

